

平成29年度 栃木県校友会総会並びに学術研修会

平成29年度栃木県校友会定時総会並びに学術研修会が、平成30年6月24日（日）午後1時半より宇都宮ホテルニューイタヤにて開催された。司会は柴田征紀専務理事（86回）、開会挨拶は安西未央子副会長（68回）であった。物故者に対して黙祷を行い、恒例の校歌斉唱があった。

主催者挨拶を佐川徹三県校友会会長（68回）が会務報告も兼ねて行った。校友会本部関係では平成29年度秋、並びに平成30年春の本学出身の叙勲者数が合わせて24名もあり、やはり伝統を感じさせるものであった。本部総会に先立ち、その顕彰会が開かれたこと、校友会本部の現状と課題として校友会の門戸を広げるべく協議検討していること、共済の見直しを図っていることなどを話された。

日本歯科医師会関係では国家試験不合格者の救済対策、E-Systemの変更について、さらには歯科衛生士の離職問題まで多岐にわたり懇切丁寧な報告された。

県校友会と栃木県歯科医師会関係では東京と新潟において本県人会が開かれ、その状況の説明の後、第39回全国歯科保健大会が栃木県主管で11月17日（土）宇都宮文化会館にて開催されること、平成30年度第45回関東地区日本歯科大学校友会懇和会が9月30日（日）にホテル東日本宇都宮にて開かれることなどを話され、多くの会員に参加を求める趣旨の話がされた。

次の来賓紹介および挨拶では、近藤勝洪校友会本部会長と講演会講師の二宮一智新潟病院総合診療科准教授（80回）の紹介があった。

近藤会長の挨拶では、校友会と同窓会の違いに言及され、母校の発展があってこそこの校友会であるので歯科医師を目指すご子弟はぜひ、本学に入学いただきたいと話された。また、福祉共済存続のための見直しや、報償費等の経費を減らし、さらには校友会役員の人員削減等も行い、2025年問題を含め将来を見据えた対策を行っていること、なお附属短期大学や他大学出身者に対しても、校友会の門戸を広げ



講演する二宮准教授

会員数を増やしたい意向も報告していただいた。

記念品贈呈では、近藤会長より功労者表彰として水沼秀樹会員（77回）と笹谷和伸会員（84回）の二人に授与された。次いで新入会員として新島 祥（101回）、若菜孝裕（96回）、川井俊博（93回）各会員の自己紹介があった。

続いて協議に移り、遅澤弘明議長（67回）、清水力 副議長（72回）のもと、栃木県校友会会則変更などを含む議事はスムーズに進行し、総会閉会を白井正人副会長（73回）が宣した。

その後研修会に移り、「開業歯科診療所における高齢者・有病者の留意点」という演題で二宮准教授の講演が始まった。高齢化についての概論から高齢者治療の各論に流れるように講演は進み、かかりつけ歯科医の必要性和医科歯科連携の重要性、さらには口腔機能低下症の診断に用いられる様々な検査について詳細にご教授いただいた。特に口腔乾燥症を入りに診療を進めてはどうかという示唆には目から鱗が落ちる感があった。

会場を3階の蓬来の間に移して懇親会が開かれ、来賓に宮下 均 栃木県歯科医師会会長を迎えて和やかに進み、名取喜久雄顧問（50回）の中締めでお開きとなった。毎年思うことだが、大学と校友、校友同士の絆を強める意義ある集会なので、さらに多くの校友に参加してほしいと願いつつ、開催報告としたい。

（前橋 潮・75回記、写真：鈴木定幸・80回）